



町村自治

10月 2015 平成 27年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 小笠原 靖介 ● 印刷所 長尾印刷(株)
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail ack@aomori-chousonkai.jp



昭和60年から続く伝統のイベント「鮭まつり」

平成27年度は11月21日・22日に開催。

おいらせ町最大のイベントである鮭まつりは、何と云っても奥入瀬川の河川敷で行われる鮭のつかみ取りが一番！

元気のいい鮭が水しぶきを立てる中、悲鳴とも歓声ともとれる声をあげ必死になって鮭を追い回す。

子供から大人まで、世代を問わずに楽しむことができるダイナミックなイベントです。

【No. 1208】

〔日本一のおいらせ鮭まつり おいらせ町^{ちょう}〕

- 本会定期総会…………… 2
- 理事会ほか…………… 4
- 栄養教諭に関する情報交換会… 6
- まちづくりへの挑戦 鶴田町…………… 10
- いまが旬！…………… 12
- 随想 三村おいらせ町長…………… 16



公務に備え健康チェック

町村長健康管理研修

本会は、定期総会後、引き続き八月二十七日まで、町村長健康管理研修を実施した。

二十六日は、町村長健康管理



県健康福祉部の一戸部長が講演

理研修会を開催し、県健康福祉部の一戸部長が「健康づくりの気運醸成から実践へ」町村長を目標として」と題し講演し、「青森県の平均寿命は年々延びてきてはいるものの、平均寿命ランキングは全国最下位。死因別死亡数は悪性新生物（がん）が最も多い。青森県は、がんの罹患率は全国平均並みであるにも関わらず、死亡率が高く、早期の発見が少ない。対策は、喫煙対策や、がん健診受診率向上などが挙げられる」などと講演した。

また、午後にはストレッチ研修会を開催し、健康運動指

対し行った。

⑥道路除排雪関連経費の財政支援に関する要望は、県と本会が合同で、総務省等関係省及び県選出国會議員へ行い、市町村道路除排雪補助の臨時特例措置の支援が行われた。

⑦町村長行政調査研修は、東

アジアにおける本県を含めた日本の農林水産品等の海外輸出の状況や、経済・文化の動向等を調査するため、香港、マカオ、上海、蘇州の各地域を視察した。

⑧東北新幹線全線開業では、町村の魅力面向全国に向け強く



ストレッチ研修会の天間講師

導士会青森県支部理事の天間琴美氏の指導のもと、自宅で簡単にできるストレッチと筋力トレーニングを参加者皆で実践。自分の体を見つめ直し、汗を流すことで、心身ともにリフレッシュした。

二十七日は、青森市の総合健診センターで各種検査を受診し、今後の公務に備えた。

発信し、新たな青森ファンを獲得すること並びに町村振興を目的に、（公財）県市町村振興協会の助成を受け、町村が実施する事業に対して助成金を交付する「町村の魅力発信事業」を実施した。

⑨町村行政負担軽減のため

の法令外負担金等委員会は、四十五団体から申請のあった町村負担金等の審査・規制を行ったほか、地方分権時代に向けた地域の担い手とされる自治体職員の企画・政策形成能力向上等、資質向上を図るため本会が関わって設立した自主研究会を支援した。

⑩町村が抱える様々な課題について町村と連携し、その現状と問題点を洗い出し、課題解決に向けた調査研究を行う町村自治振興調査研究は、「農林水産品の販路拡大」について会議及び視察研修を実施し、意見・情報交換を行い、また、調査研究の概要を取りまとめた報告書を作成し各町村へ送付した。

⑪一方、町村長の健康管理の一環として、例年通り健康管理研修会及び総合健診を実施した。

⑫さらに、本会事業運営の基盤である各種共済事業の推進、自治功労者表彰の実施、市町村長等特別研修会ほか各種研修事業、町村職員採用試験など事業計画に基づいて実施したほか、本会内部に事務局を置く三協議会や県・関係団体

と緊密な連携のうえ、積極的な協力・協働体制で事業を実施した。（事項別概要略）

○議案第二号 平成二十六年 度青森県町村会一般会計収入支出決算の認定を求めるの件
 収入総額二億七千七百七十八万八千九百九十九円に対して支出総額二億六千八百八十九万九千九百九十三円で、収入支出差引額一千五百八十九万六千二百六十四円。

○議案第三号 平成二十六年 度青森県町村会公有物件共済事業等特別会計収入支出決算の認定を求めるの件
 収入総額五千二百四十五万五千七百九十五円に対して支出総額五千八百二十二万八千二百三十八円で収入支出差引額百一十七万九千五百五十七円。

総会閉会后、関係二団体からそれぞれ説明事項があった。
 ▽県健康福祉部 弘前大学医師修学資金協議について
 ▽県すこやか福祉事業団 〓「あおもり出会いサポートセンター」事業について

定期総会提案事項等を審議

第3回理事会



本会は、定期総会に先立つ七月二十一日、青森市の県共同ビルで第三回理事会を開催した。出席者は吉田会長をはじめ役員町村長十二人。理事会では、二十六年年度本会会務報告、一般会計収支決算の認定など議案四件の審議と、第二回定期総会次第案に

ついて協議した。審議の結果、それぞれ原案どおり承認、決定し、会務報告及び収支決算等は、八月二十五日開催の定期総会に提案することとした。議案及び協議事項は次のとおり。

議案

- 議案第一号 平成二十六年青森県町村会会務報告について同意を求めるの件
- 議案第二号 平成二十六年青森県町村会一般会計収支支出決算について同意を求めるの件
- 議案第三号 平成二十六年青森県町村会公有物件共済事業等特別会計収入支出決算について同意を求めるの件
- 議案第四号 平成二十七年青森県町村会一般会計補正予算（補正第一号）案

協議事項

- 協議事項一 平成二十七年第二回青森県町村会定期総会次第案について
- 概要は、本紙二、三頁参照。

26年度の決算を認定

生協支部委員会

全国町村職員生活協同組合県支部は、本会理事会終了後、第二回委員会を開催した。委員会では、同支部の二十六年年度収支決算など議案二件を審議し、原案どおり承認、決定した。

医師修学資金支援事業について審議

第4回理事会

本会は九月二十四日、青森市の県共同ビルで題四回理事会を開催した。出席者は、吉田会長をはじめ役員町村長十人。

理事会では、弘前大学医師

修学資金支援事業について協議した。

協議事項

- 協議事項一 弘前大学医師修学資金支援事業について

災害共済事務局長会議に対する

要望事項を協議

北海道東北六県災害共済部課長会議



あいさつをする小川庶務課長

務部長、筒井参事が出席した。会議は、本県の小笠原常務理事のあいさつの後、各道県から提出のあった北海道・東北・関東ブロック町村会災害共済事務局長会議への要望事項十五件について協議を行い、「任意共済医療保障加入年齢の引き上げ」、「構造別基準額の見直し」の二件を要望事項に決定した。

平成二十七年北海道東北ブロック災害共済担当部課長会議が七月十六日、青森市のアップルパレス青森で開催され、各道県の災害共済部課長十六名のほか、全国町村会から小川庶務課長、坂中生協業

また、協議の後、北海道町村会から提出のあった「建物災害共済事業の基率一本化に対する対応」等について意見交換を行った。なお、次年度開催県は岩手県に決定した。

青森県高等学校将来構想検討会議で

本会より意見陳述

七月二十七日、青森市のウエディングプラザアラスカで、県教育委員会の主催により、青森県立高等学校将来構想検討会議が開催された。

会議には吉田会長が出席し、事前に町村から提出のあった意見を踏まえ、青森県立高等学校将来構想検討会議の答申及び次期高等学校教育改革実施計画の策定に当たっての市町村の関わり方、高校生の通

学環境等を含む県立高等学校に関する市町村との連携、その他、県立高等学校教育改革に関する意見について、意見陳述した。また、同様に県市長会も鹿内会長より意見陳述した。



意見陳述する吉田会長



青森県立高等学校将来構想検討会議における意見聴取に係る意見

県教育委員会では、平成30年度以降の県立高等学校の在り方を検討するため、検討会議を設置され、社会の変化や生徒数の急激な減少に対応して、夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高等学校の在り方について、検討をしていると伺っております。

青森県はもとより、全国的な少子高齢化の進行など、現在の厳しい社会情勢の下では、生徒数の減少により、教育効果や学校活力の低下、学校運営への支障が懸念されるところではありますが、高等学校は、地域との繋がりが強く、地域力の一端を担ってきたところであり、これを縮小・閉校することによって、これまで根付いていた地域力が、今後、更に衰退することも懸念されるところであります。

このため、各町村からは様々な声が寄せられております。

つきましては、平成30年度以降の県立高等学校の在り方の検討に当たりましては、今後開催される地区懇談会で出される地域住民の意見を十分考慮していただくとともに、これら地元町村の意見も十分尊重くださるようお願いいたします。

(各町村意見要旨略)

自動車事故への対応を学ぶ

自動車事故処理研修会

本会は七月二十三日、青森市のアップルパレス青森で自動車事故処理研修会を開催した。出席者は市町村及び一部事務組合の担当者等約七十人。はじめに、事務局が「年々多様化する事故事例と、迅速で適切な対応による円満解決のためのポイント等をテーマとした。今後とも皆さんのご理解と御協力をお願いしたい。」とあいさつした。

最後に、本会顧問弁護士である竹田法律事務所の伊藤弁護士から「交通事故の解決手続きについて」と題し、訴訟となつた公用車の事故の判例、解決のための訴訟の特徴やポイント等について講演があり、出席者は今後の事故処理における対応について理解を深めた。

研修会では、損保ジャパン日本興亜青森支店青森保険金サービス課の小沢課長から「自動車事故事例について」と題し、急増する自転車と歩行者・自動車との事故形態や賠償責任、駐車場内事故の過失の考え方等について最近の事例を交えて説明があった。



小沢課長が自動車事故事例について講演

栄養教諭に関する情報交換会で 本会より意見陳述



吉田会長が町村からの意見を陳述



木村衆議院議員のあいさつ

九月二十八日、青森市のホテル青森で県教育委員会の主催により、栄養教諭に関する情報交換会が開催された。

教育に関する資質と栄養に関する専門性を生かし「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体的に行うことを目的に設置された栄養教諭について、意見交換を行い、情報共有することが目的。

会議には、自民党の栄養教諭議員連盟所属の木村太郎衆議院議員、県市長会の鹿内青森市長、県学校栄養士協議会の相馬会長ら約十人が出席した。

本会からは吉田会長が出席し、「県に対しては、全町村に栄養教諭を配置し、既に配置されている町村については、実状にあった配置をしていたきたい。合わせて国に対しては、県で十分な配置ができるよう、配置基準の見直しをするようお願いしたい。」と述べ、各町村からの意見を陳述した。

震災の復旧・復興対策、地方創生の推進等を要請

北海道東北六県町村会

北海道東北六県町村会協議会（会長 榎野北海道町村会長）は、七月二十四日、東京都内で、二十八年度政府予算編成並びに施策に関する要請及び東日本大震災に関する特別要請活動を行った。

要請活動には、吉田会長など各道県会長が出席し、三原自由民主党副幹事長、大石総務事務次官、佐藤総務省自治財政局長、岡本復興庁事務次官ほか、総務省幹部職員に提案書を提出し、要請項目の実現を強く求めた。

要請項目は次のとおり。

二十八年度政府予算編成並びに施策に関する要請

- 1 地方創生の推進について
- 2 町村自治の確立について
- 3 町村財政基盤の強化について
- 4 再生可能エネルギーによる地域振興の推進について
- 5 新幹線鉄道の建設促進及び並行在来線への財政支援について
- 6 道路網等の整備促進につ

いて

- 7 農業・農村対策の推進について
- 8 森林・林業対策の推進について
- 9 水産業対策の推進について
- 10 地域医療の充実について
- 11 北方領土の早期返還について

東日本大震災に関する特別要請

- I 復旧・復興対策
 - 1 特例的な財政支援の継続
 - 2 復旧・復興に要する必要な財源の確保
 - 3 復興特区制度の柔軟な運用
 - 4 被災者の生活再建に対する支援
 - 5 医療・社会福祉施設等の復旧・復興支援及び継続的な人的支援
 - 6 文教環境の復旧・復興支援
 - 7 農林水産業の復旧・復興支援
 - 8 復興事業としての社会資本整備等の促進
- II 原子力災害対策
 - 1 真の事故収束に向けた取り組み
 - 2 福島復興再生特別措置法の確実な実施
 - 3 健康被害防止対策等への支援
 - 4 損害賠償等の確実な実施
 - 5 放射性物質の除染等
 - 6 中間貯蔵施設の整備等
 - 7 風評被害防止等へ向けた取り組み
 - 8 避難指示区域の復興と避難者への生活支援
 - 9 地域経済の復興に向けた支援及び新たな産業による雇用創出
 - 10 防犯・防火体制の強化
 - 11 避難指示区域等における有害鳥獣対策
- 9 地域の実態に即したまちづくりの推進
- 10 再生可能エネルギー導入促進に向けた支援
- 11 被災企業等への支援と雇用の創出・確保
- 12 観光復興に向けた支援策の拡充
- 13 復興推進のための体制強化
- 14 東北復興のための国際プロジェクト等の誘致

栄養教諭に係る情報交換会における意見要旨

栄養教諭制度は、食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し児童生徒の食生活の乱れが深刻化する中で、学校における食に関する指導を充実し、児童生徒が望ましい食習慣を身につけることができるよう創設されたものと理解しております。

また、国民の健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進すること等を目的とした食育基本法において、子供たちに対する食育の重要性が心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼすものとして、学校における食育の推進が基本的施策の一つとして定められ、各町村においても、法の基本理念を踏まえ、食育推進に関する自主的な施策を実施することが責務として位置づけされているところです。

そういう中で、栄養教諭は、近年では、児童生徒への安全・安心な学校給食の提供はもとより、食育の推進、アレルギーへの対応など、期待と役割は非常に大きくなっていきます。

各町村の状況は、小・中学校に栄養教諭が配置されていない町村がまだ多くあるほか、栄養教諭一人でも多くの小・中学校を巡回しなければならないなど、負担が大きくなっていく状況にあります。

また、本県の平均寿命が男女とも全国最下位であります。健康な体は子どものうちからつくる必要があります。

このようなことから、県に対しては、全町村に栄養教諭を配置していただきますとともに、既に配置されている町村の実情に合った配置をしてくださるよう、お願いします。合わせて、国に対しては、県で十分な配置ができるような、配置基準の見直しをしてくださるよう、お願いします。

(町村からの意見略)

町村等職員採用 統一試験を実施

三十三団体が参加

本会は七月二十六日(日)並びに九月二十日(日)、町村職員採用試験を青森市の青森公立大学で実施した。

受験申込者数は二十三団体、三百三十八名。

九月の第二回統一試験の職種は中級職、初級職、社会人で参加団体及び受験申込者数は三十団体四百二十九名。

今年度実施予定の統一試験は終了し、今後、今年度中に本会に試験実施を依頼する場合は、試験問題の提供のみの個別試験対応となる。

人口減少克服・ 地方創生に向けて 山崎地方創生 総括官が講演

市町村自治研修会

本会、県市長会、県市町村振興協会は三者共催により、七月三十一日、青森市のアツプルパレス青森で市町村自治研修会を開催した。出席者は町村長、副町村長及び幹部職員等約百五十人。



山崎氏が人口減少克服・地方創生に向けて講演

研修会では、はじめに吉田会長が、「現在の地方行政財政を取り巻く環境は、急速な少子高齢化や人口減少、地域経済の活力の低下など、極めて厳しい環境下にある。地方も

自主性・独自性を最大限に發揮し、人口減少の克服や雇用創出等を図り、地方創生に取り組んでいく。」と、あいさつした。

引き続き内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方創生総括官の山崎史郎氏が「人口減少克服・地方創生に向けて」と題し、「人口減少社会」と「今後の対応」のあり方に関し、国民の基本的共有が必要。また、根柢なき「楽観論」や「悲観論」でなく、「正確かつ冷静な議論が重要であるなど」と、国の政策やデータを交えて講演した。

町村の自慢のグルメ・ 物産が大集合!

町イチ!村イチ!2015

九月二十二、二十三日、全国の町村が一堂に会し、特産品や観光資源等の「宝」をアピールすることを目的として、全国町村会主催のイベント「町イチ!村イチ!2015」が、東京国際フォーラム、有楽町駅前広場の二会場で開催された。

今回は、全国九百二十八町村のうち、三百十町村(本県十二町村含む)が参加し、二日間で五万二千人の来場者があった。展示・販売コーナーには全国各地の特産品が出品されたほか、「町イチ!村イチ!食堂」での郷土料理の販売や、ご当地キャラクターの出演など、それぞれの出展町



賑わう展示・販売コーナー

村が「イチ押し」を披露した。

大間原子力建設所・東通原子力発電所を視察

エネルギー政策特別委員会

エネルギー政策に関する視察研修は、十月一日（木）、

二日（金）の日程で町村長十四人が参加し、電源開発株式会社の大間原子力建設所及び東北電力株式会社の東通原子力発電所を視察した。

大間原子力建設所では、電源開発株式会社南之園大間現地本部長、森内委員長（外ヶ浜町長）のあいさつのあと、電源開発より建設所の概要説



大間原子力建設所を現場視察

明、現場視察、町村長の意見を交換を行った。

また、東通原子力発電所では、東北電力株式会社坂本副社長、森内委員長のあいさつのもと、東北電力より発電所の概要説明、安全対策説明、断層調査現場等の視察、意見交換を行った。

二日間の視察により、参加した町村長は、両発電所の現状を直接見聞し、原子力発電所並びにエネルギー政策の理解を深めた。



東通原子力発電所であいさつをする森内委員長

消防事務の基礎を学ぶ

消防補償等実務研修会
及び健康づくりセミナー
市町村総合事務組合

県市町村総合組合は九月八日、青森市のラ・プラス青い森で、消防補償等実務研修会及び健康づくりセミナーを開催した。出席者は市町村の消防事務担当者等約四十人。研修会では、はじめに本組合の小笠原事務局長が「地域

防災を担う消防団の安全と健康を守ることは市町村の責務で、災害現場などで起こる事故を未然に防ぐため、団員が安全確実に任務を遂行するための知識・技術を習得できる環境を一層充実強化する必要がある」とあいさつした。

引き続き、消防団員等公務災害補償等共済基金の水戸調査役並びに吉田主事から、公務災害発生時の提出書類、療養費等の請求の留意点、及び退職報償金の基礎階級の決定や勤務年数の算定など、公務災害補償業務及び公務災害防止事業、退職報償金業務等の

事務手続きについてそれぞれ説明があった。

また、午後に開催した健康づくりセミナーでは、NPO法人日本健康運動指導士会青森県支部の支部長・健康運動指導士の西村氏と健康運動指導士の相馬氏が「短命県日本一青森返上!! あなたの本気を感ぜたい」と題し、運動実技の指導を交えながら、「毎日、体重と血圧を測り、自分の体に気を使うことが、生活習慣病などの予防にもなる。また、普段から少しの時間でも運動する習慣をつけることが重要」と講演した。

徴収実務への理解を深める

市町村税務徴収研修



篠栗町の生野係長が講演

七月二十四日、県市町村課と青森県市町村税滞納整理機構の共催により、青森市のラ・プラス青い森で、市町村の徴収担当者等約七十人が参加し、市町村税務徴収研修が開催された。

佐々木機構長のあいさつに続き、青森税務署徴収部門の高橋統括国税徴収官による国税徴収法の解説、滞納整理機構による不動産公売、自動車引揚げ等の事例発表、福岡県篠栗町税務課の生野徴収係長

による講演が行われた。

「篠栗町徴収勝利学」と題した講演では、滞納者への捜索により収集した資料をもとに過払金請求、ヤミ金対策、ファイナンシャルプランナーによる生活再建相談等の先進事例が紹介された。受講者からは、「徴収するだけが業務でないと再認識した」、「今後の業務に役立てたい」といった意見が多数寄せられるなど、徴収実務への関心や理解を深めた。

「市町村職員自主研究」 講演会のお知らせ

1 日時

平成27年11月14日（土）午後2時

2 場所

野辺地町 中央公民館 1階「ホール」

3 講師及びテーマ

パネルディスカッション

「自治に生きる私たち」

コーディネーター

青森公立大学経営経済学部 教授

天 野 巡 一 氏

パネリスト

岩手県紫波町役場 元町民課長

NPO法人点空社

副代表理事 藤 尾 智 子 氏

公益財団法人 足立区生涯学習振興

公社事務局長 永 井 章 子 氏

東京都武蔵野市 財務部管財課

課長補佐 高 橋 陽 子 氏

※詳細は、本会業務課

(017-723-1331) まで。



藤崎町長

平田
ひらた

博幸
ひろゆき
氏

任期満了に伴う藤崎町長選挙は、九月二十九日、告示され、現職の平田博幸氏（58）が、無投票で再選を果たしました。（略歴）町議会副議長



野辺地町長

中谷
なかや

純逸
じゅんいつ
氏

任期満了に伴う野辺地町長選挙は、九月二十九日、告示され、現職の中谷純逸氏（66）が、無投票で再選を果たしました。（略歴）県議会副議長

青森県町村長等名簿

平成27年10月1日現在
町村数30町村(22町8村)

| 区 分 | | 町 村 長 氏 名 | 生年月日 | 当選回数 | 任期満了年月日 | 副町村長氏名 |
|-----|-------|-----------|-------------|------|------------|--------|
| 東郡 | 平内町 | 船橋茂久 | S24. 7. 17 | 1 | 27. 11. 14 | 山田光昭 |
| | 今別町 | 阿部義治 | S25. 9. 18 | 1 | 29. 10. 12 | |
| | 外ヶ浜町 | 森内勇 | S13. 3. 2 | 3 | 29. 4. 23 | 沼田謙市 |
| | 蓬田村 | 久慈修一 | S25. 8. 1 | 1 | 29. 11. 8 | |
| 西郡 | 鱒ヶ沢町 | 東條昭彦 | S16. 4. 15 | 2 | 29. 12. 26 | 長内仁 |
| | 深浦町 | 吉田満 | S28. 9. 9 | 2 | 28. 12. 20 | 菊池雄司 |
| 中郡 | 西目屋村 | 関和典 | S42. 2. 24 | 3 | 30. 2. 25 | |
| 南郡 | 藤崎町 | 平田博幸 | S32. 6. 2 | 2 | 31. 11. 19 | |
| | 大鰐町 | 山田年伸 | S27. 3. 11 | 2 | 30. 7. 21 | |
| | 田舎館村 | 鈴木孝雄 | S12. 2. 10 | 3 | 28. 11. 17 | 葛西幸男 |
| 北郡 | 板柳町 | 成田誠 | S28. 3. 4 | 1 | 31. 4. 29 | 村上孝夫 |
| | 鶴田町 | 相川正光 | S28. 10. 29 | 1 | 30. 8. 20 | |
| | 中泊町 | 小野俊逸 | S17. 7. 29 | 5 | 29. 4. 23 | 秋元良一 |
| 上北郡 | 野辺地町 | 中谷純逸 | S24. 8. 16 | 2 | 31. 10. 26 | 松山英樹 |
| | 七戸町 | 小又勉 | S24. 1. 2 | 3 | 29. 4. 23 | 似鳥和彦 |
| | 六戸町 | 吉田豊 | S25. 3. 28 | 6 | 28. 1. 27 | 保土澤正教 |
| | 横浜町 | 野坂充 | S26. 1. 31 | 3 | 28. 12. 11 | 新渡喜広 |
| | 東北町 | 斗賀壽一 | S19. 7. 2 | 2 | 29. 4. 23 | 蛭名敏治 |
| | おいらせ町 | 三村正太郎 | S24. 10. 7 | 5 | 30. 3. 25 | 柏崎源悦 |
| 下北郡 | 六ヶ所村 | 戸田衛 | S22. 1. 28 | 1 | 30. 7. 6 | 橋本晋 |
| | 大間町 | 金澤満春 | S25. 3. 9 | 3 | 29. 1. 18 | 菊池武利 |
| | 東通村 | 越善靖夫 | S17. 1. 7 | 5 | 29. 4. 12 | 林春美 |
| | 風間浦村 | 飯田浩一 | S35. 5. 5 | 2 | 31. 4. 25 | |
| 三戸郡 | 佐井村 | 樋口秀視 | S26. 4. 10 | 1 | 30. 4. 26 | |
| | 三戸町 | 竹原義人 | S25. 11. 28 | 2 | 28. 12. 15 | 藤村正彦 |
| | 五戸町 | 三浦正名 | S29. 1. 1 | 5 | 31. 6. 26 | 鳥谷部禮三郎 |
| | 田子町 | 山本晴美 | S39. 4. 10 | 1 | 28. 1. 14 | 原昌徳 |
| | 南部町 | 工藤祐直 | S30. 5. 22 | 5 | 30. 2. 11 | 坂本勝二 |
| 新郷村 | 階上町 | 浜谷豊美 | S31. 8. 23 | 3 | 29. 12. 23 | 沼沢範雄 |
| | 新郷村 | 須藤良美 | S15. 3. 29 | 3 | 29. 5. 28 | 横田孝夫 |



甘くておいしい冬ぶどう！

「冬ぶどうつるたまちスチューベン」の

統一ブランド化を目指して

徹底した品質管理で全国区の商品へ



スチューベンぶどうの栽培面積・生産量ともに日本一である鶴田町は、スチューベン生産日本一にふさわしい産地を確立するため、平成二十六年十月、「冬ぶどうつるたまちスチューベン」として統一ブランド化することへ動き出しました。

ニวยอร์กから
来た甘い冬ぶどう

ニวยอร์กで生まれたスチューベンは、同緯度の鶴田町の気候風土によく合い、昭和四十五年以降から転作作物として栽培を行ってきました。その後、生産量が次第に増え、今では日本一を誇っています。また、リンゴの貯蔵技術を応用した専用施設に貯蔵することで、十月から翌年二月頃までおいしく食べることができます。

スチューベンの魅力は甘さ（糖度十八度以上）と、貯蔵

性の高さ（普通冷蔵で約二ヶ月貯蔵可能）です。十月初旬から中旬が収穫の最盛期ですが、低温での貯蔵によりクリスマスやお正月はもちろん、二月いっぱいまで食べることができます。

糖度が高く、酸味も少ないため、誰からも愛される町自慢のぶどうです。

「冬ぶどうつるたまちスチューベン」として
ブランド化へ

鶴田町産スチューベンの持つ魅力と価値を十分に引き出し、磨き上げ、積極的に発信し、全国ブランドへと育て上



げるため、町、関係団体、地元市場などで組織する「つるたまちスチューベン日本一推進協議会」を平成二十六年六月に設立しました。

この協議会では、魅力や価値などの情報を積極的に発信するなどのPR戦略も含めて、全国ブランドを目指すための総合的な販売戦略に係る検討や活動を行っています。

その中でも、PR用として作成したロゴマークの販売資材への使用方法や、出荷・販売に係る統一基準作成などについても検討を重ねています。今後も、ブランド化のためのシステム構築と効果的な事業を展開していく予定です。

これまで、スチューベンの生果はJA、団体、企業がそれぞれ組織ブランドとして扱っている、加工品の開発も企業、道の駅が個別に実施していま



ワイン、ジュース、菓子等数多くの関連商品が販売されている。



た。町では、平成二十六年十月、これらを新たなブランド「冬ぶどうつるたスチューベン」として統一し、すべての組織で活用することに向け、動き出しました。その上で、品質や規格を統一し、これまでは違うアプローチにより新規顧客の開拓、県外販路の拡大、知名度の向上を目指し、スチューベン生産日本一にふさわしい産地を確立しようという取り組みをしています。

もっとおいしく食べる！

糖度が高く甘くて美味しい「冬ぶどうつるたスチューベン」ですが、より美味しく食べるための見分け方、食べ方をご紹介します。

見分け方

色が濃く、粒に張りがあり、白っぽい粉「ブルーム」がついているもので軸がしっかりしたものを選びましょう。スチューベンの房（ふさ）の先の粒が一番熟しやすいので、その粒に張りがあるものは鮮度が高い証拠です。

食べ方

「冬ぶどうつるたスチューベン」は津軽の寒冷な土地で自然のまま栽培されている種ありぶどうです。ス



ブルーム：水分の蒸発を防ぐもので、ブルームがついているものほどジューシーなスチューベンです。

チューベンの果実はもちろんのことですが、実は「皮と果実の間」が一番甘いといわれています。種のまわりは少し酸味があるため、地元の人には、中の実をそのまま噛まずに飲み込み、皮に残った果汁も吸います。これが地元の人がおすすめるスチューベンを一番おいしく食べる方法です。

スチューベンや

関連商品の購入について

ついで

「冬ぶどうつるたスチューベン」は、町内はもちろんですが、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」や津軽ぶどう村のネットショップでの通信販売でもお求めいただけます。また、観光ぶどう園では、もぎ取り体験もできます。その他にも、百品目に及ぶ

加工品・関連商品を開発し、現在は二十一品目・三十一種類を販売しています。商品は道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」や町内の土産物屋・商店にて購入することができます。

今後の取り組み

町では、「つるたスチューベン日本一推進協議会」の活動等を通じて、更なる消費・販路拡大を目指していくこととしています。

現在、収穫最盛期の「冬ぶどうつるたスチューベン」。甘くておいしい冬ぶどうを、ぜひ、ご賞味下さい。

※鶴田町の「冬ぶどうつるたスチューベン」に関するお問い合わせは、鶴田町役場産業観光課（0173-221211）までお願いします。



道の駅つるた 鶴の里あるじゃ

〒038-3524
青森県北津軽郡鶴田町大字境字里見
176-1 (国道339号バイパス沿い)
TEL 0173-22-5656
FAX 0173-23-1040
HPアドレス
<http://www.tsurunosato-aruja.com/>



問い合わせ先 ひらない秋まつり実行委員会
TEL 017-755-2118

芸術の秋、収穫の秋。例年個々に行っておりました「平内町民文化祭」と「商工会びっくり市」が町政60周年を迎えた今年、合同開催となり新しく「ひらない秋まつり」として開催されます。伝統芸能、芸術展示、商店街大売出しなど盛りだくさんの内容で皆様のお越しをお待ちしております。

○期間：10月31日（土）～11月1日（日）

○メイン会場：平内町立体育館

新イベント

「ひらない秋まつり」

いまが旬!
ひらないまち
平内町

東津軽郡



問い合わせ先 鱒ヶ沢町中央公民館
TEL 0173-72-2859

10月25日（日）、赤石川白神^{おおじかり}大天然河川公園で「あかいし溪流まつり」が開催されます。

赤石川の金鮎の塩焼きやカジカの唐揚げなど特産品の販売や、赤石芸能保存会による登山囃子演奏など、雄大な自然の中でグルメと文化体験が楽しめます！

白神山地の玄関口で、色彩鮮やかな紅葉に囲まれた秋の赤石溪流と白神の味覚をご堪能ください。（※小雨決行）

紅葉を眺めながら赤石川の金鮎を味わってみませんか？

いまが旬!
あしがさわまち
鱒ヶ沢町

西津軽郡



問い合わせ先 藤崎町役場企画財政課
TEL 0172-75-3111

藤崎町の二大特産品である「米」と「りんご」の収穫感謝や文化芸能発表、健康づくりをテーマとした秋のまつりです。

青森県初の特A米「青天の霹靂」を使った日本一の「ジャンボおにぎり」づくりや、当町発祥のりんご「ふじ」のPRイベント、そのほか文化展や芸能発表、こどもの広場など様々な催しで会場を盛り上げます。

期間：11月22日（日）～11月23日（月）

会場：常盤小学校体育館周辺

第3回ふじさき秋まつり

いまが旬!
ふじなままち
藤崎町

南津軽郡



問い合わせ先 七戸そば博覧会事務局（七戸町役場企画調整課内）
TEL 0176-68-2940

南部地方のかけそばの祭典「第6回七戸そば博覧会」が10月24日（土）・25日（日）の2日間、七戸体育館で開催されます。県外でしか市販されていない七戸産そば粉「にじゆたか」を使用した一杯や、そば愛好家集団「二八の会」の手打ちそばなど、この日しか食べられないそばも用意していますので、ぜひご来場ください。

10/24（土）・25（日）
第6回七戸そば博覧会！

いまが旬!
しちのへまち
七戸町

上北郡

いまが旬!
横浜町

よこはままち

上北郡

横浜なまこフェア

陸奥湾内のブランドとして定着している「横浜なまこ」の真のおいしさを知っていただくために、旬といわれている12月に「横浜なまこフェア」を開催します。なまこ料理と海産物や自然など、横浜町を広く楽しめるイベントとなっています。

日時：12月初頭～中旬迄



横浜なまこ膳

問い合わせ先 横浜町役場 産業振興課
TEL 0175-78-2111

いまが旬!
風間浦村

かまのうらむら

下北郡

風間浦鮫鱈(あんこう)

風間浦の近海で水揚げされる鮫鱈は、刺し網やエサを付けない「空釣り」という延縄で漁獲されるため、全国でもめずらしく活きたままで水揚げされ、刺身でも食べることができます。鮫鱈は12月から3月が最もおいしい季節で、下風呂温泉のホテルや旅館では風間浦ならではの鮫鱈フルコースを提供しています。



問い合わせ先 風間浦村役場 産業建設課
TEL 0175-35-2111

いまが旬!
新郷村

しんきょうむら

三戸郡

「郷のきみ」の甘さに
驚くなかれ!

村の特産品として、年々知名度が上がっている「郷のきみ」。甘いトウモロコシです。多くの方に味わっていただけると、今年は生産者を増やしました。

ネットショッピングは、新郷村ふるさと活性化公社でできます。(期間限定) 真空パック商品もありますので、ぜひ一度ご賞味ください。



問い合わせ先 新郷村ふるさと活性化公社
TEL 0178-78-2511

●お知らせとお願い

「あおり町村自治」は、会務活動状況及び災害共済諸事業の啓発事項、県市町村総合事務組合及び内部団体の活動状況のほか、町村長の紹介及び各町村の特集記事等を掲載し、3カ月に1回季刊発行しています。

本ページの「町村トピックス いまが旬!」は、各町村の時期、季節の旬の情報をPRするコーナーで、イベント、観光スポット、施設、特産品、町の話・出来事などが満載!

各町村で、本紙への掲載希望事項等がありましたらご連絡ください。また、表紙写真や関連記事等掲載依頼の際は、ご協力をよろしくお願いいたします。

あなたと、あなたが愛する家族のために 「任意共済保険」へのご加入をおすすめします。



制度内容・申込手続きに関するお問合せ先
青森県町村会 総務課〔共済事業〕 電話：017-723-1331

入院（1泊2日以上）・手術等を、現職中から退職後まで幅広く保障する制度です。

3 掛金は、任意共済保険の規模による割引を適用しております。

4 1年ごとに収支計算を行い、剰余金が生じた場合は、配当金をお受け取りになれます。
平成28年度から退職後継続加入の方も配当金をお受け取りになれます。

昨年度の年間
払込掛金に対
する配当実績

任意共済保険
〔団体定期保険〕
約36.3%

※これは平成26年度（*）の配当実績に基づくものであり、将来のお受け取りをお約束するものではありません。
（*）保険期間：平成26年1月1日～平成26年12月31日

退職後のお取扱いについて

退職後継続加入制度 職員とその配偶者の方は、退職後も、現職中と同様の保障が得られます！

任意共済保険 死亡・所定の高度障がい状態を保障します。
最長年齢70歳6カ月まで更新できます。

医療保障保険 1泊2日以上入院・手術等を保障します。
最長69歳6カ月まで更新できます。
●医療保障保険を継続加入いただくには、任意共済保険を継続加入いただく必要があります。

- 1** 退職後も退職時に加入していた保障額を限度に共済契約を継続（退職者加入への移行）できます。
(退職時に本共済をご利用されていた方です。)
- 2** 移行後は、退職者と青森県町村会との間で直接、継続等の事務手続きを行います。
(退職後の翌1月からの継続書類はご自宅に郵送されます。)
- 3** 退職者加入への移行を希望される方は事前に団体担当者にご相談願います。
(「退職者継続加入申込書」のご記入をお願いします。)
- 4** 加入できるのは職員とその配偶者となります。
子どもは退職後継続加入制度の対象とはなりません。
- 5** 掛金のお払込みは年払いのみとなります。

任意共済保険

任意共済保険

【団体定期保険】

- 所定の高度障がい状態の保障！
- 死亡時の保障！

医療保障保険

【総合医療保険（団体型）】



- 手術のときにも給付金が支払われます！
- 1泊2日以上入院から保障！

制度の

しくみ

特徴

任意共済保険は、みなさまの死亡・所定の高度障がい状態・

1 ライフステージの変化に合わせて、毎年保障額の見直しができます。
(健康状態によっては保障額を増額できない場合があります。)

2 お申込み手続きは健康状態等の告知による方法です。
(医師の診査はありません。)

現 職 中

任意共済保険

死亡・所定の高度障がい状態を保障します。

- 職員とその配偶者様・お子様まで、万一の場合の安心をサポートいたします。

保険金額 職員(400万円)、配偶者(400万円、1,000万円)が追加されました！(*)

▼ご加入 保険期間1年～

| | 申込保険金額 | 新規加入・増額 |
|-----|------------------------|------------|
| 職員 | 3,000万円～600万円、400万円(*) | 年齢60歳6カ月まで |
| 配偶者 | 1,000万円～400万円(*) | 年齢60歳6カ月まで |
| 子ども | 400万円 | 年齢22歳6カ月まで |

更新 更新 更新

原則として、加入資格を満たすかぎり、更新により継続してご加入いただくことができます。
更新日付にて、加入保険金額を増額(または減額)することができます。

*新規加入・増額をされる場合には、「申込書兼告知書」裏面に記載の質問事項に対する答えが全て「いいえ」となる必要があります。
(*) 保険金額 職員(400万円)、配偶者(400万円)は新規に加入される方のみとなります。すでに加入されている方は、選択できません。

- このようなときに、保険金をお支払いします。

- 保険期間中に死亡された場合
- 保険期間中に、加入日(*)以後の病気やケガによって、所定の高度障がい状態になられた場合
(*) 保障額を増額する場合、増額部分については、加入日を増額日と読替えます。

医療保障保険

1泊2日以上入院・手術等を保障します。

- 任意共済保険に加入された、職員とその配偶者様・お子様をご加入いただくことができます。

(医療保障保険にご加入いただくには、任意共済保険にご加入いただく必要があります。)

▼ご加入 保険期間1年～

| | 申込入院給付金日額 | 新規加入・増額 | |
|-----|------------------------|--|------------|
| 職員 | 入院給付金:12,000円～5,000円 | 入院療養給付金: 入院給付金日額×5 手術給付金: ・1泊2日以上継続した入院中に受けられた対象手術につき 入院給付金日額×20 放射線治療は、 入院給付金日額×10 外来・日帰り手術は、 入院給付金日額×5 | 年齢60歳6カ月まで |
| 配偶者 | 入院給付金:10,000円～3,000円 | | 年齢60歳6カ月まで |
| 子ども | 入院給付金:5,000円あるいは3,000円 | | 年齢22歳6カ月まで |

更新 更新 更新

原則として、加入資格を満たすかぎり、更新により継続してご加入いただくことができます。
更新日付にて、入院給付金日額を増額(または減額)することができます。

*新規加入・増額をされる場合には、「申込書兼告知書」裏面に記載の質問事項に対する答えが全て「いいえ」となる必要があります。

- 保険期間中のケガや病気等による「入院」「手術」等に対する保障を確保できます。

留意点

- 医療保障保険にご加入いただくには、任意共済保険にご加入いただく必要があります。
- 配偶者・子どものみで加入することはできません。また、配偶者は、任意共済保険・医療保障保険ともに職員と同額もしくはそれ以下の保障額でお申込みください。子どもは、医療保障保険については配偶者と同額もしくはそれ以下の保障額でお申込みください。

みむら
三村

しょうたろう
正太郎

おいらせ町長



随想

第27話

プロフィール

旧百石町長、旧百石町議会副議長。
現在5期目、66歳。

新たな歴史の創造と飛躍
さらなる進化を求めて

おいらせ町は、県の東南部に位置し、奥入瀬川下流域の豊かな自然に包まれた町です。八戸市、十和田市、三沢市に囲まれ、高速道路のインターチェンジや東北幹線八戸駅、八戸港、三沢空港など広域玄関口から三十分圏内にあるなど地理的環境に恵まれています。

私は、政策公約の一つである「笑顔あふれる元気な町」の実現に向け、「健康長寿青森県一」の取組みを掲げました。その第一歩として、本年六月に「健康長寿のまちづくり宣言大会」を行い、町内の幼稚園や小中学校、企業、町民の約三百人とともに健康宣言をし、七月には十五の企業・団体と「健康長寿のまちづくり協定」を締結いたしました。また、町民の積極的な健康づくり活動（健活）を応援する「いきいき健活ポイント事業」をスタートさせました。これは、健診を受け、いろいろ

るな健康づくり事業に参加することでポイントが貯まり、二十ポイントになると千円分の商品券と交換できるというものです。この新たな取組みを皮切りに、保健、福祉、介護をはじめ、軽スポーツや社会参加活動、生きがいづくりなど町民の健康づくり施策を総合的に展開していくつもりです。



健康長寿のまちづくり宣言

さらに、子どもを産み育て、定住してもらええる環境を整えるため、第二子以降の子の出産に対して祝金を支給し、子どもの健やかな成長と人口増加に資することを目的として多子出産祝金支給事業をスタートさせます。その他にも、

保育料の軽減や中学生までの医療費の無料化など、子育て環境の整備に努めています。また、小学校児童数が減少し、高齢化が進行する地域に、転入して住宅を新築するなどして定住する方に対し、助成金を支給しています。

このように、「健康」と「定住」をキーワードに、子どもから高齢者まで全ての世代が健康で安心して暮らせる地域社会の実現に向け歩んでおります。

当町は、平成十八年三月一日に旧百石町と旧下田町とが合併し、来年三月一日で十年目を迎えます。この記念すべき節目の年に、町では様々な十周年記念事業を展開し、多くの町民の参画のもと、更なる融和を図るとともに、今後ますますの発展、飛躍を目指しております。

そのメイン行事として、十一月一日には町誕生十周年記念式典を挙行します。これまでの歩みを振り返り、これからの「新たな歴史の創造と飛躍、さらなる進化を求めて」二万五千町民とともにお祝いしたいと思えます。また、そ

のアトラクションで、今秘かに準備を進めている「おいらせよさこいソーラン」を初披露する予定にしております。さて、同月二十一日と二十二日の二日間、奥入瀬川河川敷のしもだサーモンパークにおいて、第十回日本一のおいらせ鮭まつりを開催いたします。今年も鮭のつかみどりをご用意しておりますので、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

今、地方の社会経済情勢は大きく変化しておりますが、この激動と変革の時代においても、輝く将来性と限りない可能性を持ち合わせた「おいらせ町」を發展させ、町民一人ひとりの笑顔があふれ、夢と希望を持ち、明るく元気に健やかに暮らせる町を目指して進んでまいります。



奥入瀬川